

間の開閉

2015052 牧田 奥夕



人々が関わりを持てる空間を提案する。
現代の建築空間は内部で完結してしまっているのではないだろうか。
内部にいるときに外部を感じる時は、ドアを開閉するときや窓の開閉の時だ。
この内外を繋げる建具によって我々は自分以外の人間と干渉することができるのである。
そんな建具の可能性を広げる提案である。

計画地

計画地静岡県袋井市袋井の住宅地を計画地とする。敷地は東海道沿いにあり、駅から真北に徒歩10分ほど進んだところである。敷地は角地で、周辺には学校や公共施設、さまざまな世帯が住む。近頃は高齢化が進み活発な人の姿は少ない。

設計データ

延床面積 153m²、建築面積 117m²、建坪率 46.2%、一階床面積 117m²、二階床面積 36m²、構造形式木造、仕上げ“板張り”(外) 塗壁(内)

居住者像

祖父 (70) 自治会会長

趣味は本を読むこと書くこと

父 (47) サラリーマン

趣味は旅行



母 (42) 専業主婦

趣味は料理

子供 (17) 高校生

趣味は絵を書くこと



家族とは

ずらいたいと思う空間